

古典文庫『狭衣物語』(蓮空本) 補訂卷一

— 蓮空本・四高本・学習院本との比較から —

神田	龍身	青木	祐子
鈴木	幹生	勝亦	志織
近藤	さやか	千野	裕子

「キーワード ①『狭衣物語』 ②古典文庫 ③蓮空本 ④四高本 ⑤学習院本」

本稿は、吉田幸一著古典文庫96、97、100『狭衣物語蓮空本』

(以下、古典文庫)、蓮空本(巻一・二のみ現存。天理大学附属天理図書館蔵)、蓮空本を江戸期に書写した四高本(金沢大学附属中央図書館蔵)、四高本を昭和期に書写した学習院本(学習院大学文学部日本語日本文学科蔵)の四本を対照し、その異同箇所を一覧にしたものである。

古典文庫は巻一・二の底本に蓮空本、巻三・四の底本に学習院本を使用している。しかし、巻一・二における蓮空本における脱落や虫損箇所については、学習院本によって補われている。そのため、巻一からの異同を見ることに意義があると考え、今回は巻一について表にした。蓮空本・四高本・学習院本の関係

を明確にするため、今後、巻四まで継続する予定である。

以下、表についての凡例である。

一、古典文庫の該当ページを示し、異同の見られる箇所を諸本ごとに提示し、疑問の箇所には「？」を付した。

一、古典文庫が独自に付した濁点、句読点、括弧については異同とは認めず、また古典文庫の「ママ」や私案等についても同様とした。

一、古典文庫では、踊り字について「々」などで表記している場合があるが、これらも底本が踊り字であった場合には異同とは取らなかった。

一、異同箇所には算用数字による通し番号を付した。

一、朱書の場合は、どの箇所が朱書であるかを「ミセケチ朱」などの表記で示した。

付記

貴重な資料の閲覧及び翻刻掲載をご許可くださった、天理大学附属天理図書館、金沢大学附属図書館、学習院大学文学部日本語日本文学科に厚く御礼申し上げます。

本稿作成にあたり、学習院本の翻刻に協力してくださった左記の皆さんに御礼申し上げます。

富澤 萌未（学習院大学大学院人文科学研究科日本語日本

文学専攻博士後期課程修了）

瀬野 瑛子（同大学院博士前期課程修了）

手塚智恵子（同大学院博士前期課程修了）

竹田由花子（同大学院博士後期課程在学）

毛利香奈子（同大学院博士後期課程在学）

なお、本稿は科学研究費助成事業「狭衣物語諸本研究―三条西家本を軸にして―」（基盤研究（C）15K02224／研究代表者：

神田龍身）による成果の一部である。

（かんだ・たつみ 文学部教授）

（あおき・ゆうこ 文学部非常勤講師）

（すずき・みきお 博士前期課程修了）

（かつまた・しおり 博士後期課程修了）

（こんどう・さやか 博士後期課程修了）

（ちの・ゆうこ 博士後期課程修了）

12	11	10	9	8	7	6	5	4	3	2	1	番号
4	4	3	3	3	3	2	2	2	1	1	1	頁
よにまかせ	おほしうとまれ	おほしたる	たてまつらん	たぢすまゐ た	ぞき 人もなし	ひきそへ	まもられ給へり	しなにも	御かたに	なげつへき	春おしめども	古典文庫
よにまかせ	おほしうとまれ	おほしたるに	たてまつらん	たぢすまゐ た	ぞき 人もなし	ひきそへ	まもられ給へり	しなにも	御かたに	なげつへき	春おしめども	蓮空自筆本
よにまかせ も	おほしうとまれ	おほしたるに	たてまつらん ※「つ」の上に「て」と書き直 している。	たぢすまゐ	ぞき 人もなし	ひきそへ?	まもられ給へり	しなにも え	御かたへ ※「に」の上に「へ」と書き直 している。	なげつへき	春おしめども はい	四高本
よにまかせ も	おほしうとまれ	おほしたるに	たてまつらん	たぢすまゐ	ぞき(書き入れ朱) 人もなし(ミセケチ朱)	ひきそへ	まもられ給へる	しなにも え	御かたへ	なげつへき	春おしめども はい	学習院本

26	25	24	23	22	21	20	19	18	17	16	15	14	13
18	18	18	17	13	13	11	10	10	9	8	7	6	5
せんよう殿	いろはだへ	みえまつれ	ふところイ た、うがみ	あなひし給はぬ	かひなる	いまめかしきさま	かきねの	まめだち	かけのこくさ	御 ゆ身のさへ	宮たゞひとり	兵部卿宮 式イ	たゞ人になり給にけれと
せんよう殿	いろはたへ	みえ、つれ	ふところイ た、うがみ	あなひし給はぬ	かひなる	いまめかしきさま	かきねの	まめたち	かけのこくさ	御 ゆ身のさへ	君た、ひとり	兵部卿宮 式イ	た、人になり給にけれと
せんよう殿	いろはたへ あゐ み	みえ、つれ	ふところイ た、うがみ	あなひし給はぬ	かひなる	いまめかしきさま かた	かきねの	まめたち	かけのみくさ	御身のさへ	君た、ひとり	兵部卿宮 式イ	た、人になり給にけん ^ハ と ※「れ」の上に「ん」と書き直 している。
せんえう殿	いろはたへ ゑ	みえつれ	た、うがみ	あるひし給はぬ	かひある	いまめかしきさま かた	うきねの	ま あめたち（ミセケチ朱）	かけのみくさ	御身のさへ	君た、ひとり	兵部卿宮 式イ（イのみ朱）	た、人になり給にけん ^ハ と

番号	頁	古典文庫	蓮空自筆本	四高本	学習院本
41	33	給ぬるをみ給て	給ぬるをみ給て	給ぬるをみ給て	給ぬるをみ給ん
40	32	なにことにて	なにことにて	なにことにて	なにかとにて
39	31	めづらかなり	め?つらかなり	め?つらかなり	めづらかなり めカ(朱)
38	29	ミンづら	みんづら	ひんづら	ひんづら
37	28	みたまはざりしかは	みたまはざりしかは	みたまはざり?しかは ま?	みたまはまづししかは ま
36	27	御ぜんのとうろ	御せんのとうろ	御せんのとうろ まへ	御せんのとうろ まへ
35	25	せめさせ給へば	せめさせ給へば	せめさせ給へば	せめさせ給へば
34	24	事のほかにても	事のほかにても	事のほかにても 手	事のほかにても 手
33	24	おかし	おかし	ナシ	ナシ
32	24	まぎれて らはし	まぎれて らはし	まきははして	まきははして
31	24	まふゆふまも	まふゆふまも	ナシ	ナシ
30	24	かきあはせて○ こそ	かきあはせて○ こそ	かきあはせてこそ	かきあはせてこそ
29	22	きなゆし	きなゆし	きなし	きなし
28	21	うちわたりに	うちわたるに	うちわたるに	うちわたるに
27	19	みきこえけり	みきこえけり	みきこえけん ※「り」の上に「ん」と書き直 している。	みきこえけん

56	55	54	53	52	51	50	49	48	47	46	45	44	43	42
46	44	44	41	40	39	38	38	38	37	35	34	34	34	34
まいりて候へば、	もらし侍りぬるこそ	とらへられたる	身色如金山	いはれ給ぬり	そうづめして	げにとの、の給へる	しかせてね給ぬる	せちにきこえ給へは	むかひのをかは	思ひ給くへらる、	殿上くちに	ならんかし	ひたき屋の人も	さはがしき ^{くイ} ゆも ^本 し
まいりて候へは	もらし侍りぬる [■] そ	とらへられたる	身色如金山	いはれ給ぬり	そうづめして	げにとの、の給つる	しかせてね給ぬる	せちにきこえ給へは	むかひのをかは	思ひ給へらる、	殿上くちに	ならんかし	ひたきやの人も	さはがしき ^{くイ} ゆも ^本 し
まいりてさふらへは	もらし侍りぬるこそ も(朱)	とらへられたる	身色如金山	いはれ給ぬる (ミセケチも朱)	そうづめして め(朱)	げにこの、の給つる	しかせてね給ぬる ぬ ※書き込みは鉛筆力。	せちにきこえ給へは	むかひのおかは	思ひ給へらる、	殿上くちに の	ならんかし	ひたきやの人も 〔「人も」の上は朱線〕 ひども(朱)	さはがしき ^{くイ}
まいりて宮は	もらし侍りぬるこそ	こらへられたる	身也如金山	いはれ給ぬる	そうづめして	げにこの、の給つる	しかせてね給ぬる	せちにきこえ給へも	むかひのおかは	思ひ給へらる、	殿上くちに の	ならんかく	ひたきやの人も ひども(朱)	さはがしき ^{くイ}

70	69	68	67	66	65	64	63	62	61	60	59	58	57	番号
59	58	57	56	56	56	54	54	53	53	53	52	52	47	頁
威儀師と○人 申	人くハやくく	いとをかし なつかし い	思給事そあらん	をこたり侍るなり	なくさめそひ給て	御めのとにても候けり	いか、おもふらん	宮のさの給はせんを	すきくしう	うへもあはれなり ざいたい	ひとりこつに	けしきの	さ ○きこえ給は、	古典文庫
威儀師と○人 申	人くはやくく	いとをかし なつかし い	思給事そあらん	をこたり侍るなり	なくさめそひ給て	御めのとにても候けり	いか、おもふらん	宮のさの給はせんを	すきくしう	うへもあはれなり さいたい	ひとりこつに	けしきの	さ ○きこえ給は、	蓮空自筆本
威儀師と申人	人くかやくく	いとをかし なつかし い	思給事そあらん	をこたり侍りなり	なくさめそひ給て ※「ひ」の上に書き直した跡有。 判読不能。	御めのとにても候けり	いか、おもふらん か	宮のさの給はせんを	すきくしう	うへもあはれなり さいたい	ひとりこつに	けしきの	さきこえ給は、	四高本
威儀師と申人	人くかやくく	いとをかし なつかし い	思給事そあらん	をこたり侍りなり	なくさめかね給て	御めのとにても侍けり	いか、おもふらん	宮のさ給はせんを	すきくしう	人もあはれなり さいたい	ひとりこつに り(ミセケチ朱)	けしきの	さきこえ給は、	学習院本

85	84	83	82	81	80	79	78	77	76	75	74	73	72	71
77	75	74	73	72	71	70	70	68	66	64	64	63	63	62
は、のかみの は、イ	かたもめ ハラ	又○がはゆくす末のも わ	かくの給はすれば	すがやかに○いで、 セイ	けり。○君はみなれ 中将のイ	この君にては	べたうどの、	師の中納言	人さまにぞ	いふせうあつけなり	はしとみなかく	さ○はまかりぬべき らい	きこえずて、こそ	との給ふす末 て
は、イ はくのかみの	かたもめ ハラ	又○かはゆくす末のも わ	かくの給はすれば	すかやかに○はて、 セイ	けり○君はみなれ 中将のイ	この定にては	へたうどの、	帥の中納言	人さまにぞ	いふせうあつけなり	はしとみなかく	さ○はまかりぬへき らい	きこえずて、こそ	との給ふす末 て
は、イ はくのかみの	かたはらめ	又わかゆくも	かくの給はそれは	すかやかに○はて、 セイ	けり○君はみなれ 中将のイ	この定にては	へたうどの、 ツ（朱）	帥の中納言	人さまにぞ	いふせうあつけなり	はしとみなかく	さ○はまかりぬへき らい	きこえずて、こそ はけにす（朱）	の給ふて
はくのかみの	かたはらめ	又わかゆくも	かくの給はそれは (補入記号も朱)	すかやかに○はて、 セイ（朱）	けり○君はみなれ 中将のイ（朱、補入記号も朱）	この定にては	へ○たうどの、 ツ（朱、補入記号も朱）	帥の中納言	人さまにて	いふせくあつけなり	は□とみなかく	さ○はまかりぬへき らい（朱、補入記号も朱）	きこえずて、こそ はけにす（朱）	の給ふて

番号	頁	古典文庫	蓮空自筆本	四高本	学習院本
86	77	を○かのうへの ない	を○かのうへの ない	を○かのうへの ない	を○かのうへの ない(朱、補入記号も朱)
87	77	おのこ、イ をと、この	おのこ、イ をと、この	おのこ、イ をと、この	おのこ、イ(朱) をと、この
88	78	シミかへり	しみかへり	しにかへり ※「み」の上に「に」と書き直 している。	しにかへり
89	79	あたり○に までイ	あたり○に までイ	あたり○に までイ	あたり○に(朱、補入記号も朱)
90	79	なごみぬべき きイ	なごみぬべき きイ	なごみぬべき きイ	なごみぬべき きイ(朱)
91	79	ひもとちわたる きイ	ひもとちわたる きイ	ひもとちわたる きイ	ひもとちわたる きイ(朱)
92	80	給へりイ ふし○たりける	給へりイ ふしたりける	給へりイ ふしたりける	給へりイ(朱、補入記号も朱) ふし○たりける
93	80	で そ○うちかはし	で そ○うちかはし	そてうちかはし	そてうちかはし
94	82	もイ 水はたえせし	もイ 水はたえせし	もイ 水はたえせし	もイ(朱) 水はたえせし
95	83	しられたてまつりてこそ	しられたてまつらてこそ	しられたてまつらてこそ	しられたてまつらてこそ
96	83	はくのひめきみ	はくのひめきみ	はくのひめきみ	はくのひめきみ
97	83	玉をみるける	玉をみかける	玉をみかける	玉をみるける
98	84	二イ 甘になり給けれど、	二イ 甘になり給けれど	二イ 甘になり給けれど	二イ(朱) 甘になり給けれど

112	111	110	109	108	107	106	105	104	103	102	101	100	99
93	92	92	91	90	90	89	89	88	88	87	87	85	85
かくごんの	いぬもとときとかや	はつイ はくくとよみかくる	おかしきにけぬべければ、	はつミ はらくとよみかけ	うらみにうたを	たち○にく、もある	そこらはいしくと	きぬのすそ、○ぐち、 袖	たち木まよひて	なり給て大殿 ぬイ	五月のついたち比 八イ	ほのかにて	らうたつなりけり
かくらんの	いぬもとときとかや	はつイ はくくとよみかくる	おかしきにけぬへければ	はつミイ はらくとよみかけ	うらみにうたを	たち○にく、もある	そこらはいしくと	きぬのすそ○ぐち 袖	たち木まよひて	なり給て大殿 ぬイ	五月のついたち比 八イ	ほのかにて	らうたつなりけり
かくらんの ごん(朱)	いぬもとときとかや	はつイ はくくとよみかくる	おかしきにけぬへければ	はつミイ はらくとよみかけ	うらみにうたを	たちてにく、もある るイ	そこらはいしくと	きぬのすそ袖ぐち	たちさまよひて	なり給て大殿 ぬイ	五月のついたち比 八イ	ほのかにて	らうたけなりけり ※「つ」の上に「け」と書き直 している。
かくごんの	いぬもときてかや	はつイ(朱) はくくとよみかくる	おかしきにけぬへければ	はつミイ(朱) はらくとよみかけ	うらみにうたを ら(ミセケチのみ朱)	たちてにく、もある るイ(朱)	そこらはいしくと	きぬのすそ袖ぐち	たちさまよひて	なり給て大殿 ぬイ(朱)	五月のついたち比 八イ(朱)	ほのかにて	らうたけなりけり

123	122	121	120	119	118	117	116	115	114	113	番号
105	105	104	101	99	99	99	99	97	95	94	頁
わが、たはらに	よはかくかへり ふ	ぞとよ「など」	神無月の比 ともに〇つくしへ	女君たちならず	あるとの給はと ハ	別當の〇少将 このイ	さそふ水だに	ありしいのりのしに	このみし給ほどに	かのかうちけん くしイ	古典文庫
わか、たはしに	よはかくかへり ふ	ぞとよなど	神無月の比 ともに〇つくしへ	女君たちならず	あるとの給はと は	別當の〇少将 このイ	さそふ水だに	ありしいのりのしに	このみし給ほどに	かのかうちけん くし■(虫損)	蓮空自筆本
わか、たはしに	よふかくかへり	ぞとよなど	神無月の比イ ともに〇つくしへ	女君た、ならず ※「たち」の上に「た、」と書き直している。	あるとの給はと	別當の〇少将 このイ	さそふ水だに 水	ありしいのりのし (朱)師	このみし給ほどに	かのかうちけん こ(朱)	四高本
わか、たはしに	よふかくかへり	ぞとよなど よ(ミセケチ朱)	神無月の比イ(朱) ともに〇つくしへ (補入記号も朱)	女君た、ならず	あるとの給は、と	別當の〇少将 (補入記号も朱)	さそふ水だに	ありしいのりのし (朱)師	このみし給ほども	かのかこちけん くしイ(朱)	学習院本

135	134	133	132	131	130	129	128	127	126	125	124
114	114	112	111	110	109	108	108	108	107	106	105
あやしうもの心	とかへる山のとイ 「こえぬるやま」と	女の <small>いひ</small> にてぞ 苦イ	権イ こ中納言のうせられ	あらばやなど思ふに、	するが、りぞもの、 が、めこそ	いぎしは思ひいで	きたの井はるとて に	そのくたりともなく わイ	わたらなん リイ	あとなき水に 沼イ	ふくらかなれを る
あやしうもの心	とかへる山のとイ こえぬるやまと	女の <small>いひ</small> にてぞ 苦イ	権イ こ中納言のうせられ	あらばやなど思ふに	するか、りぞもの、 か、めこそイ	いぎしは思ひいて	きたの井はるとて に	そのくたりともなく わイ	わたらなん リイ	あとなき水に 沼イ	ふくらかなれを る
あやしうもの心	とかへる山のとイ こえぬるやまと	女の <small>いひ</small> にてぞ 苦イ	権イ こ中納言のうせられ	あらばやなど思ふに	するか、りぞもの、 がの女君イ（朱）	いぎしは思ひいて （濁点朱） 師（朱）	きたに井はるとて	そのくたりともなく わイ	わたらなん リイ	あとなき水に 沼イ	ふくらかなるを
あやしうものの心	とかへる山のとイ（朱） こえぬるやまと	女の <small>いひ</small> にてぞ 苦イ（朱、ミセケチも朱）	権イ（朱） こ中納言のうせられ	あらばやなど思ふに （朱、ミセケチも朱）に	するか、りぞもの、 がの女君イ（朱）	いぎしは思ひいて 師（朱、濁点も朱）	きたに井はるとて	そのくたりともなく わイ（朱）	わたらなん リイ（朱）	あとなき水に 沼イ（朱）	ふくらかなるを

番号	頁	古典文庫	蓮空自筆本	四高本	学習院本
151	128	いまあすそわたり	いまあすそわたり	いまあすそわたり 今日(朱)	いまあすそわたり 今日(朱)
150	128	月にかよひ給し	月にかよひ給し	月にかよひ給し ※「よ」に朱で斜線有。	月にかよひ給し ※「よ」に朱で斜線有。
149	128	いできたり	いできたる	いできたる	いできたる
148	127	いまはいかなりとも	いまはいかなりとも	いまはいかなりとも	いまはいかなりとも
147	126	ひきうごしうらむ	ひきうごしうらむ	ひきうごしうらむ か(朱)	ひきうごしうらむ か(朱)
146	125	さてこそあはれと	この部分、一丁分欠	さてこそあなれと	さてこそあなれと
145	124	なつかしさま	この部分、一丁分欠	なかる、さま	なかる、さま
144	123	あまりにうたて	あまりうたて	あまりうたて	あまりうたて
143	123	をとりたると	おとりたると	おとりたると	おとりたると
142	122	いとかなしくて	いと、かなしくて	いと、かなしくて	いと、かなしくて
141	122	みよ』との給へり。	みよとの給つる	みよとの給つる	みよとの給へる
140	121	いてくだるなり	いてくだるなり	いてくだるなり	いてくだるなる
139	118	よのつねなり	よのつねなり	よのつねなり	よのつねなる
138	118	えわらひなどする	えわらひなどする	え○わらひなどする ミ	えみわらひなどする
137	115	思ひいづる事は (わくい)	思ひいづる事は わくい	思ひいづる事は わくい	思ひいづる事は わくい(朱)
136	114	くるまをとして の	くるまをとして の	くるまのをしてして	くるまのをしてして

165	164	163	162	161	160	159	158	157	156	155	154	153	152
137	137	136	134	133	132	132	131	131	131	129	129	129	128
おそろしとなん。 きにわな、くくうつぶし給め るとぞイ	ふたがりて、わな、かれ	人やみつらんと	このたい二がみえぬ	大貳かよろづに	さかりすぎ、はぎの	雁さへ雲井はるかに	夜はをのづから	なげきあかし給て	むねふたがりて	あはれとおほえつれば	おほえて、つゐに	とりかくしつる	おとしをきて
おそろしとなん きにわな、くくうつぶし給め るとぞイ	ふたかりてわな、かれ	人やみつらんと	このたい二かみえぬ	大貳かよろづに	さかりすぎはぎの	雁さへ雲井はるかに	夜はをのづから	なげきあかし給て	むねふたかりて	あはれとおほえつれば	おほえてつゐに	とりかくしつる	おとしをきて
おそろしとなん きにわな、くくうつぶし給め るとぞイ	ふたかりてわな、かれ 手もイ(朱)	人やみつらんと け(朱)	このたい二かみえぬ	大貳かよろづに	さかりすぎはぎの たる(朱)	雁さへ雲井はるかに かり(朱)	夜はをのづから ひるイ(朱)	なげきあかし給て くらしイ(朱)	むねふたかりて	あはれとおほえつれば	おほしてつゐに	とりかくしつる	おとしをきて こ(朱)
おそろしとなん きにわな、くくうつぶし給め るとぞイ(朱)	ふたかりて○わな、かれ 手もイ(朱)	人やみつらんと け(朱)	このたい二かみえぬ	大貳はよろづに	さかりすぎはぎの たる(朱)	雁さへ雲井はるかに かり(朱)	夜はをのづから ひるイ(朱)	なげきあかし給て くらしイ(朱)	むねふさかりて	あはれとおほしつれば	おほしてつゐに	とりかくしつる	おとしをきて